

平成28年7月11日～7月17日までの全国の暑さ指数（WBGT）の観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について （お知らせ）（平成28年度第9報）

1. 目的

環境省では、暑さ指数(WBGT：湿球黒球温度)の予測値・実況値について、今年度は、5月13日（金）から情報提供を開始しました。今般、全国の熱中症患者数が急増していることから、暑さ指数の情報提供に加え、暑さ指数の推定精度の高い約150地点について、過去1週間程度の暑さ指数の観測状況、暑さ指数と熱中症による救急搬送者数との関係について、定期的に情報提供を行っております。本情報等を活用し、広く熱中症の予防にご協力いただきますようお願いいたします。

2. この期間（7月11日～7月17日）の全国の暑さ指数の観測状況について

暑さ指数31℃以上（危険）の時間数	（168時間中）
-------------------	----------

- | | |
|--------------|------|
| 1. 久米島（沖縄県） | 51時間 |
| 2. 石垣島（沖縄県） | 45時間 |
| 3. 南大東島（沖縄県） | 41時間 |
| 4. 名護（沖縄県） | 35時間 |
| 5. 与那国島（沖縄県） | 33時間 |

<参考>全国9都市の観測地点（暑さ指数31℃以上）

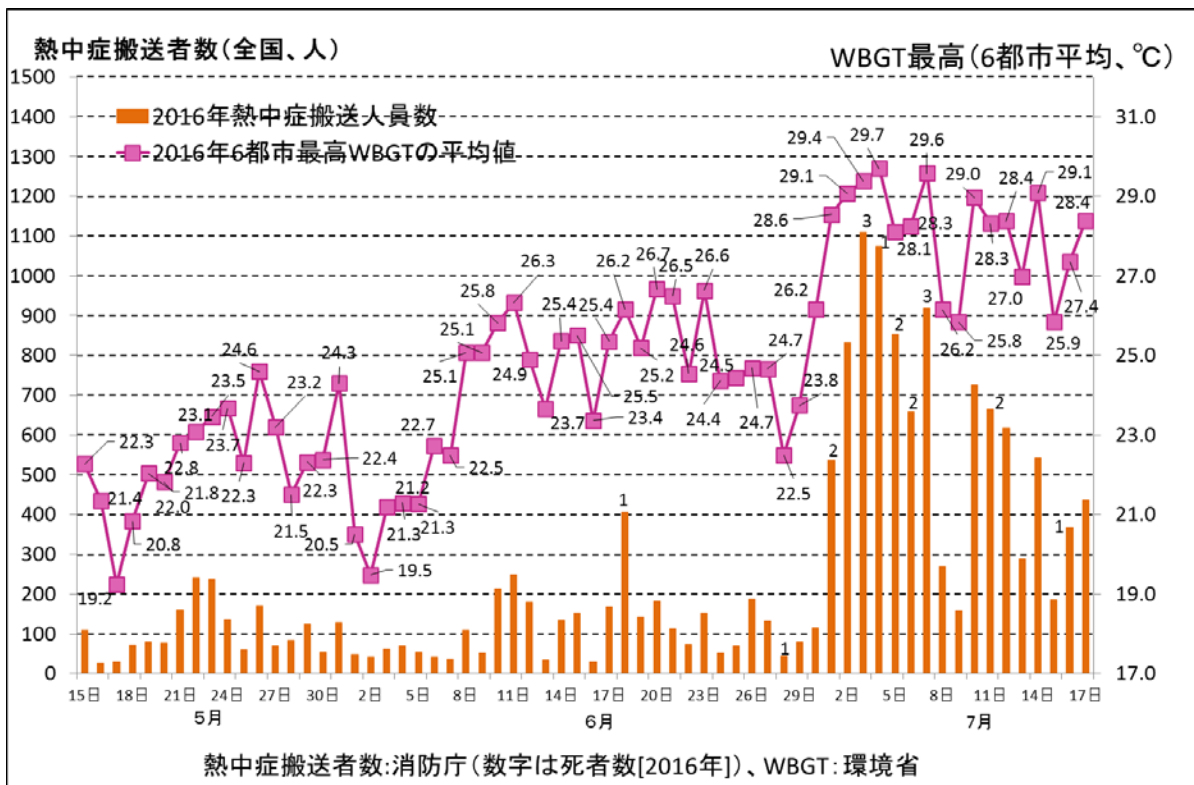
札幌（北海道）	0時間
仙台（宮城県）	0時間
新潟（新潟県）	0時間
東京（東京都）	0時間
名古屋（愛知県）	0時間
大阪（大阪府）	0時間
広島（広島県）	0時間
福岡（福岡県）	1時間
鹿児島（鹿児島県）	14時間

（注1）暑さ指数は、これまでの調査結果による推定手法を用いて、気象庁の観測資料から推定した値です。

（注2）暑さ指数31℃以上の時間が、今週は沖縄・奄美地方の全地点と九州から関東にかけて所々でありました。また、東北地方南部から九州地方にかけての広い範囲で28℃以上となった地点がありました。なお、暑さ指数31℃以上、28℃以上とは、（公財）日本体育協会の指針において、それぞれ、運動は原則中止レベル、嚴重警戒レベルです。

3. 6都市の日最高暑さ指数(WBGT)と熱中症による救急搬送者数(全国)との関係

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市

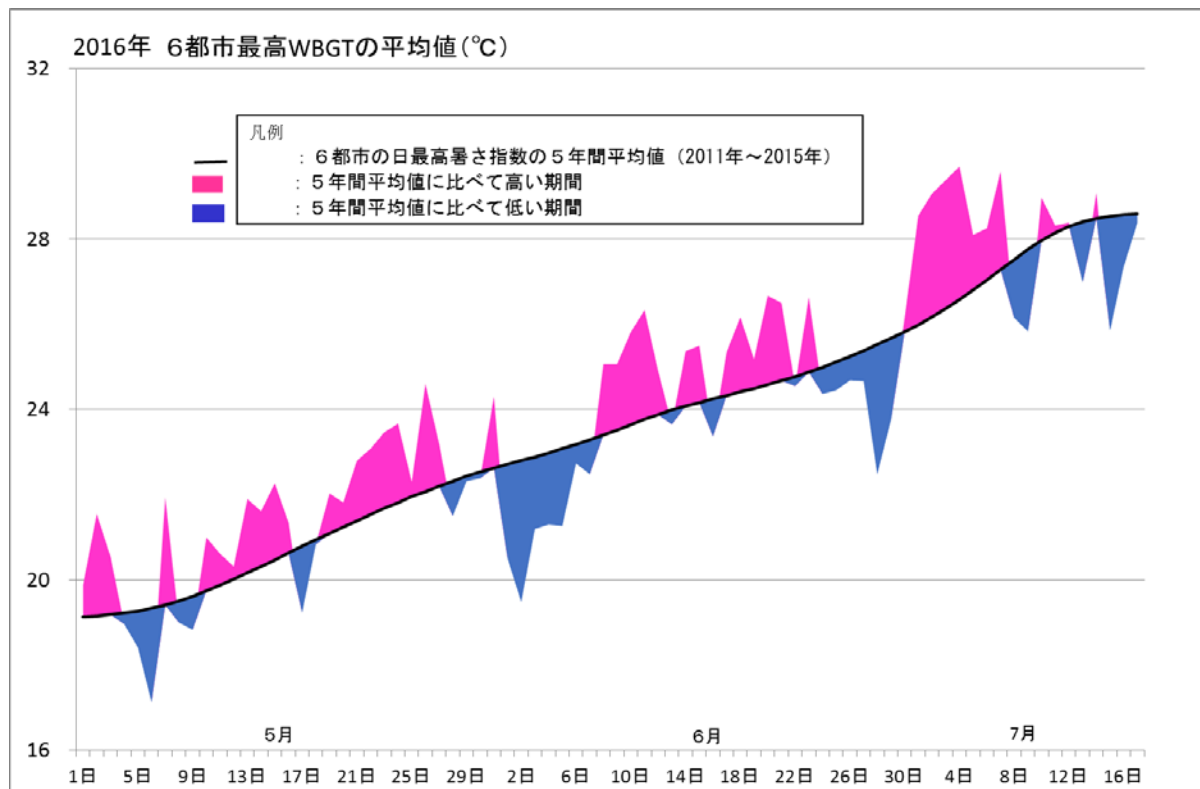


- 6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、7月11日～7月17日までの期間は27°C～29°Cの範囲で経過し、この期間は過去5年間の平均よりは低い日が多くなりましたが、過去の平均値が盛夏期に近づき、28°Cを超えてかなり高いため、熱中症に警戒すべき状況は変わっていません。熱中症による救急搬送者数は、消防庁発表の速報によるとこの期間には1日当たり500人を超える日が3日あり、その他の日でも100人を超えました。今期間中に3人の方が熱中症で亡くなりました。
- 沖縄・奄美地方から関東地方にかけての所々で、熱中症危険度の「危険」を示す31°C以上となる時間がありました。また、東北南部以南の各地では、「厳重警戒」を示す28°C以上の地点が多くなっており、引き続き、広い範囲で熱中症に警戒が必要な状態が続いています。
- 気象庁発表(7月20日11時時点)の週間天気予報によれば、「最高気温・最低気温とも、北日本から西日本は平年並か平年より低いでしょう。沖縄・奄美は、平年並か平年より高い見込みです。」とされています。平年より低くても最高気温は30°Cを超える地域も多くあります。また、7月24日からの約1週間は、沖縄では気温が平年に比べてかなり高くなる確率が高いという情報も発表されています。東海地方から西の地域では、梅雨明けが発表されており、盛夏期を迎えて、平年の暑さであっても十分に熱中症への警戒が必要です。
- 湿度が高く、晴れた日には気温も高く蒸し暑くなります。特に天気予報などに注意し高温になる日には、無理な作業や運動をせず、こまめな水分補給や休息をとるなど、体調管理に注意してください。

(注) 6都市における暑さ指数は、環境省の観測と気象庁の観測資料から求めた観測値です。
6都市：東京、新潟、名古屋、大阪、広島、福岡

4. 2016年の6都市の日最高暑さ指数と過去5年間平均（2011～2015年）との比較

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、最近の1週間では過去の平均値との比較では下回る日が多いですが、7月に入ってから同程度の暑さが続いています。十分な暑さ対策を心がけてください。